**私の役割**

米山学友会　篠原　曉惠

皆さん

ただいま!!!

この場を借りて、皆さんにお礼申し上げます！

何故ならば、私が今ここにいるのは、皆さんのご寄付のお陰です。どうもありがとうございました。

実は、演台に乗り沢山の人前で、話すのは苦手で、とても緊張しています。聞きにくい点があれば、ご了承ください！

　私の留学理由を話す前に、簡単な自己紹介をさせて頂きます。私は、5人姐弟の長女で、台湾の5年制工業学校（高専）の建築学科を卒業し、5年間建築事務所で働きました！1979年設備設計工事会社をしていた父が日本の機械視察の為に、私を同行して、日本の最先端建築を見て、感動的な体験をして、自分から日本に留学したいと父に伝えました！

　一年間日本語を勉強して、千葉県の日本大学生産工学部に入学し、面接試験の時に、教授から「高専卒業のあなたはなぜ“3年生に編入”にしなかったの？」と聞かされ、その時、まず「編入試験の制度」を知らない事、日本語学校で「理工学部」に受験するのは「私」が最初の生徒でした。この事を父に伝え、父から「学費」の事は心配不要で、大学一年生から勉強し、日本語の基礎をしっかり学ぶこと！と言われました。

　そのおかげで、私は、良き同級生と教授にめぐり逢い、充実した学生生活を過ごせました。大学4年生の時、「帰国」「進学」の進路を決める時に、父が急死しました。私は、「大学院」に進む事に決めました。何故なら、台湾は学歴社会で、良い会社に就職するには、「良い人間関係」（曰くコネ）と「高学歴」が必要です。父が亡くなった私は、「高学歴」が必要になりました！

　この時、私を助けてくれたのは「米山記念奨学金」で、大学院の2年間は毎月例会に出席し、自分の研究レポートを提出し、近況報告をしました。本日の卓話は、その時を思い出させてくれました。私は、「米山記念奨学生」になれたのは、1885年日本大学生産工学部大学院生の時でした。その時、1ドル360円の時代で、留学生はアルバイトをすれば、直ぐに母国へ退去される状況で、奬學金を得る事で、もちろん、母国の両親負担が軽くなり、自分も勉学に集中出来ました。私の世話クラブ「千葉船橋西」は、アクトの活動も盛んで、私も一員として、一緒に活動を通して、同世代との交流も出来ました。

世話クラブを通して、例会に出席し、夏の納涼大会・地区大会・クリスマス家族会などにも参加しました。私は日本の伝統文化・行事を体験し、グラブは各奉仕活動を通して、社会貢献と国際親善活動に、耀き功績を残る団体であることを知りました。この経験のお掛けで、いまの私は、日本の会社・地域での生活に溶け込む事にも役に立ちました。そのうえ、24年前主人の転勤で三島の社宅に入居し、子どもの成長と共に地域に溶け込んで、現在まで幸せに生活出来るのは、全てその時の体験が役に立っています。

三島に引越して初めての休日、主人の運転で社宅の廻りを案内されている時に、長泉町「米山梅吉記念館」を見つけた時の感動が今も忘れられません！直ぐに、車を停め、拝観し自分は「由緒の地」に恵み、私は、なぜ三島に来る事ができたのかを悟りました。私は、「米山記念奨学生」に選ばれた理由も分かりました。あれから、米山学友の一員として、自分の経験を後輩に伝え、母国と日本の架け橋になる事を誓いました。

台湾のことわざに「水を飲めば、その源を想う」その時、機会があれば、自分が出来る範囲で社会貢献をする事を誓いました。ご縁があって三島に定住し、学友会の一員になり、微力ながら学友会の活動を、お手伝いさせて頂いています。

ここで、皆さんにお願い：

私たちは、希望と不安を抱え、日本に「夢」を求めて参りましたが、言葉の壁・習慣文化の違い・母国とのギャップなど、さまざまな障害のなか、物価の高さにも驚きました。しかし、「米山奨学生」のおかげ、勉学に集中でき、母国の親への負担も軽くすることができました。

カウンセラーは「親」のように接していただく事で、いごこちの良さで日本が第２の故郷になりました。今、多くの奨学生は、日本で就職を希望し、だからこそ、厳しく「奨学生」に日本のマナー・会社のルールを教えて欲しいです。奨学生は、日本の会社の多くは「終身雇用」であり、社内は「先輩・後輩」のルールで、表と裏の曖昧な表現言葉で戸惑いなど、会社の環境になじめません！直ぐに、会社を辞めるのは、「奨学生」の評判が下がり、「米山記念奨学生」の名前に傷をつけることを、私は心配しています。また、是非、県内優秀な奨学生人才を優先採用して、県外へ流出しないで欲しいです。

皆さまがまいた「種」奨学生は、大樹に成長しています。「学友」の私たちは「職場」「地域」の中で、母国の「架け橋」になれるように、それぞれ社会奉仕・国際奉仕に奮闘しています。多くの学友は、誇りを持って「米山奨学生」に恥ずかしくない行動を行い、近い将来、皆さまの「仲間入り」できる学友が必ずでることでしょう。皆さまと共に「ロータリー精神」を広げ、頑張ることを誓います！

ロータリアンの皆様は、ご存知の通り「米山記念奨学会」の運営には、ロータリアン皆様のご寄付で、支えられております。もちろん、私もその恩恵を受けた一人で、沢山の学友は、将来「ローターアン」になるのは夢であり、引き続き、皆様のご寄付をよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました！